

国際教養学部(小論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

海洋プラスチック問題を例に、科学と政治との分業関係、民主主義政治の困難さというオーソドックスな社会問題の枠組みを的確に把握し説明できることと、それらに対して「理屈ではなく気分で考える」アプローチを柔軟な発想で表現できる能力を問う設問です。

- (1) 論説文を読み取り、筆者の主張を的確に把握して記述する力を問う設問です。
筆者の指摘する科学と政治との役割分担、科学の担当する範囲は客観性の担保される部分までであって、価値判断や政策決定をするものではないことを的確に表現していれば正解とします。
- (2) 文章の読解力を前提に、要旨を整理して的確に表現できる能力を問う設問です。
(1)の理解を踏まえて、個人がすべてに対して判断を下せることを前提に、科学的に不確実な中での判断を含め、さまざまな価値観が対立する中で判断を下さなければならないことが民主政治であるとする筆者の指摘を適切に把握し、簡潔明瞭に表現できていれば正解とします。
- (3) 設問文の趣旨を的確に理解していることを前提に、自分自身の問題関心に引きつけて論理的に説明できること、その際に指定のキーワードを使いこなして説明できる表現力を問う設問です。
「カッコいい」、とくに「ティッピングポイント」の語を的確に使った文章とすることは少々ハードルが高いが、適切な社会的課題を想起してその解決策も含め、提示された文脈に当てはまるように論理的な文章を組み立てている程度を評価ポイントとします。

□■ 受験生へのメッセージ

小論文は国語とは異なります。

表現する内容、ここでは国際教養学部で学ぶための知の土台をもっていることを確認するための科目です。ですので人文・社会系諸科学について、知識だけではない理解そして問題意識を問うています。この力をつけるにはありきたりですが普段から時事問題にアンテナを張り、多くの読書を通じてさまざまな考え方を柔軟に受けとめ、それらを客観視して自分自身の意見をしっかりとつことに尽きます。その厚みは確実に文章ににじみ出ます。

その上で入試の設問文だけでなくどのような場合でも、相手の質問意図を正確にくみとり、状況に合わせて柔軟に的確に答えられるよう日頃からトレーニングを繰り返してください。

蛇足ですが文章を書く際には大学受験生にふさわしい水準で漢字を使いこなすことは大前提です。普段から文章を書く際には意識しましょう。